

◎ 園田家製作の
しめ縄
とびすごも
の巣籠り ↓

上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行



正月の準備でしめ縄を飾る時期です。左の写真はしめ縄の下にさげる「とびの巣籠り」です。かつては大晦日の前の晩は横山の園田家二家族が種子島家にこれを献上していました。茅で編まれた特別な編み方はみごとです。

それにしても「とびの巣籠り」の役目は何でしょう。また種子島家にこれを献上する役割を園田家が担っていたのはなぜでしょうか。

役目

「とびの巣籠り」は下写真のようにしめ縄中央部に結ぶダイダイに合わせるようにつるします。実際の役目は万が一にもダイダイが下に落ちることのないように受けかごを準備するためです。みなさんもお存じのようにダイダイは先祖代々同族が継承され、繁栄を願うためのものです。

昔の人は縁起を異常なほどかつぎ、ダイダイが落ちるといことは種子島家が途絶えることを意味し、そのことを極端に嫌ったであろうことから作られたのが「とびの巣籠り」です。

由来

ある日、松の木にとびが飛来して巣を作りました。島主の先祖である平信基公が夜露をしのぐためにその巣の下で野宿したというおめでたい故事に因むものといわれます。



鉄砲館HP写真より

ひそかに

前述したように、園田家では大晦日の前の晩に、門木（門木に竹は使わず、松・マテバシイ・ユズリハの3種）としめ縄を誰にも会わないようにして島主家に持って行きます。途中で誰か人に会うと、けがれるというのです。

なぜ園田家が？そしてこれから

島主が初めて種子島に入島したとき、園田家は農業の専門家として鎌倉から随行して来たといわれています。

「とびの巣籠り」のしめ縄は毎年園田家が献上しており、今では鉄砲館に飾られます。（中央・右写真）巣の中にはとびの卵に見立てた丸餅と炭を入れます。

今回は、園田家当主時治さん亡きあと次代の満治さんが妻の百合子さんと作ります。（左上写真）

これからも「とびの巣籠り」を編む技が静かに守り育てられ、伝えられていくことでしょう。正月にはしめ縄「とびの巣籠り」が見られる鉄砲館に足を運んでみませんか。



「門木」
鉄砲館HP写真より